



2018年3月期 三井製糖 決算説明会

2018年5月17日



三井製糖株式会社(2109)



1. 2018年3月期 決算

(単位:億円)

	2018年 3月期	2017年 3月期	増減
売上高	1,053	1,032	21
営業利益	64	52	11
経常利益	136	125	11
親会社株主に 帰属する 当期純利益	83	75	8

営業利益

砂糖事業 +5億円

砂糖販売量は減少(前期比▲3.8%)したが、適切な原料調達により増益。

FS事業 +5億円

ニュートリー新規事業譲受による増益。

不動産事業 +1億円

岡山物流センター、メガソーラー通期稼働による増益。

その他営業外損益 +8億円

FTYロイヤリティー収入増加他。

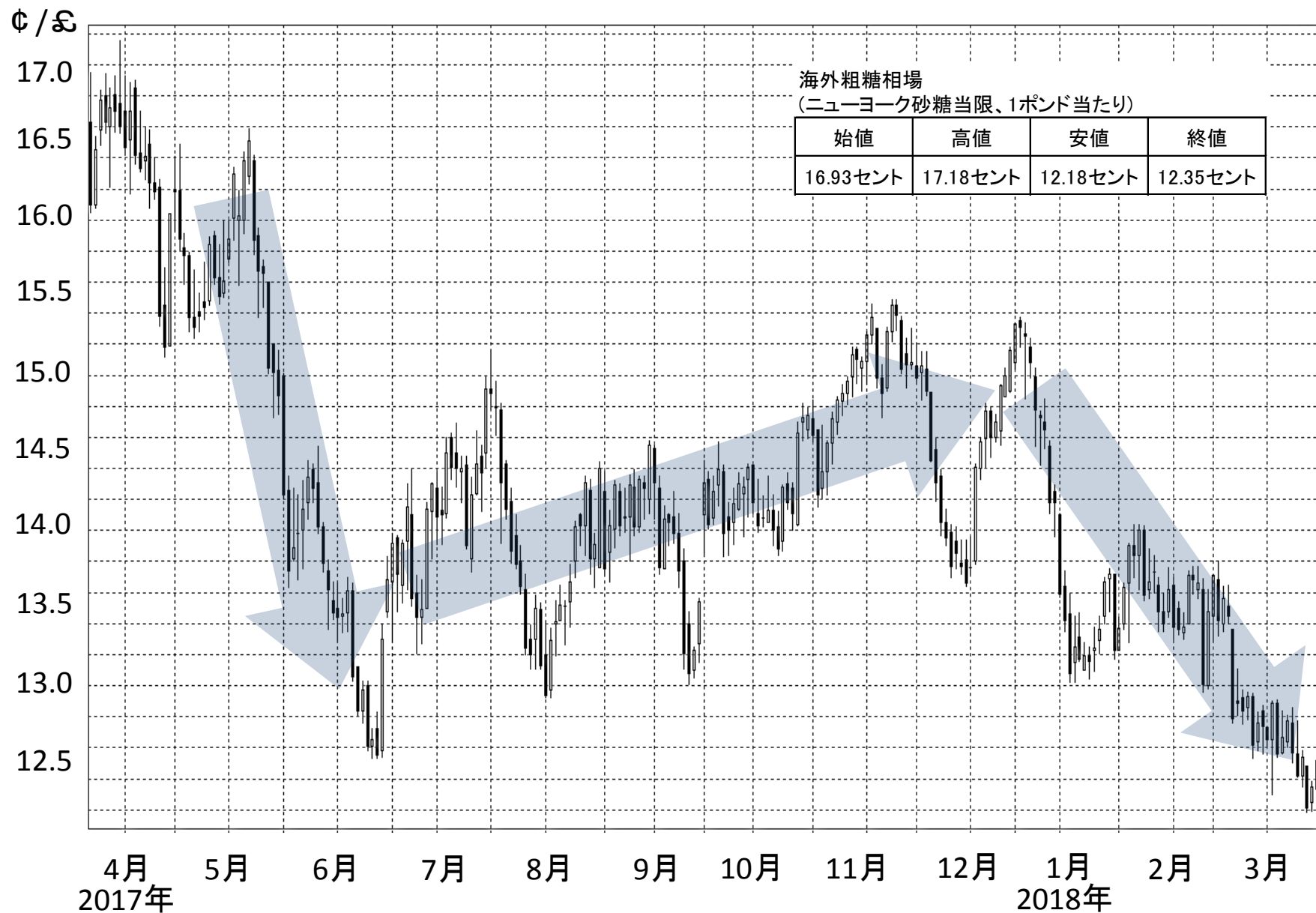
持分法投資損益 ▲8億円

タイ国関連会社販売量減少。

特別損失 ▲2億円

投資有価証券評価損の発生。
(コンブリシュガー:▲3億円)

2. 海外粗糖相場 (¢/ポンド)



3. 2019年3月期 事業計画



(単位:億円)

	2019年 3月期	2018年 3月期	増減
売上高	1,050	1,053	▲3
営業利益	47	64	▲17
経常利益	120	136	▲16
親会社株主に 帰属する 当期純利益	76	83	▲7

営業利益

砂糖事業 ▲17億円

国内需要減少傾向に加え、燃料費の高騰等によるコスト上昇のため減益。

FS事業 ▲1億円

長田工場の操業停止、子会社への生産体制一元化に伴う一過性の減益。

不動産事業 +1億円

新規賃貸物件稼働による増益。

持分法投資損益 +6億円

タイ国関連会社業績回復他。

前提条件

為替110円/ドル
粗糖相場 12



4. 2018年3月期 財務状況

キャッシュ・フロー

(単位: 億円)

	2018年3月末
営業活動によるCF	157
投資活動によるCF	▲51
(フリーキャッシュ・フロー)	(106)
財務活動によるCF	▲47

財務指標

	2018年3月末
ROE	10.5%
自己資本比率	62.3%
Net有利子負債(億円)	(▲81)

株式状況

	2018年3月末
時価総額(億円)	1,165
PER	13.2倍

営業活動CF

- ・各セグメント共、営業増益。

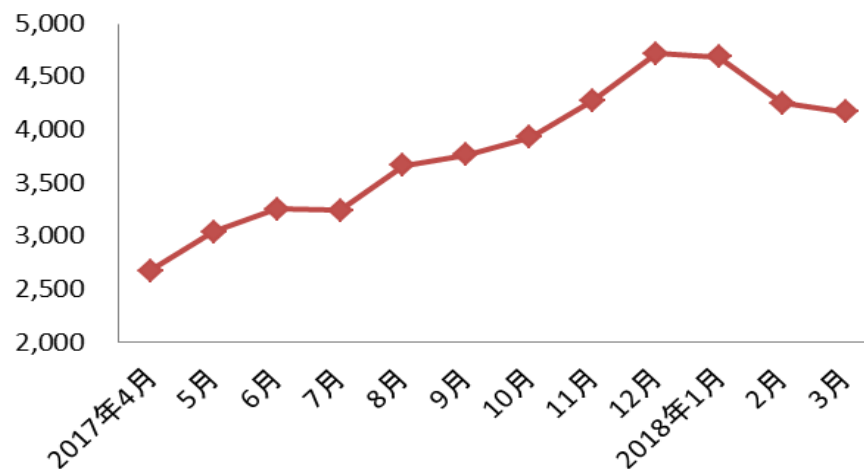
投資活動CF

- ・工場設備投資等。

財務活動CF

- ・配当金支払と借入金返済。

円/株 2018年3月期 株価推移(終値平均)



5. 三井製糖のめざす姿



企業理念

三井製糖は、安心・信頼・天然の食品素材を誠実に提供し、豊かな暮らしに貢献します。

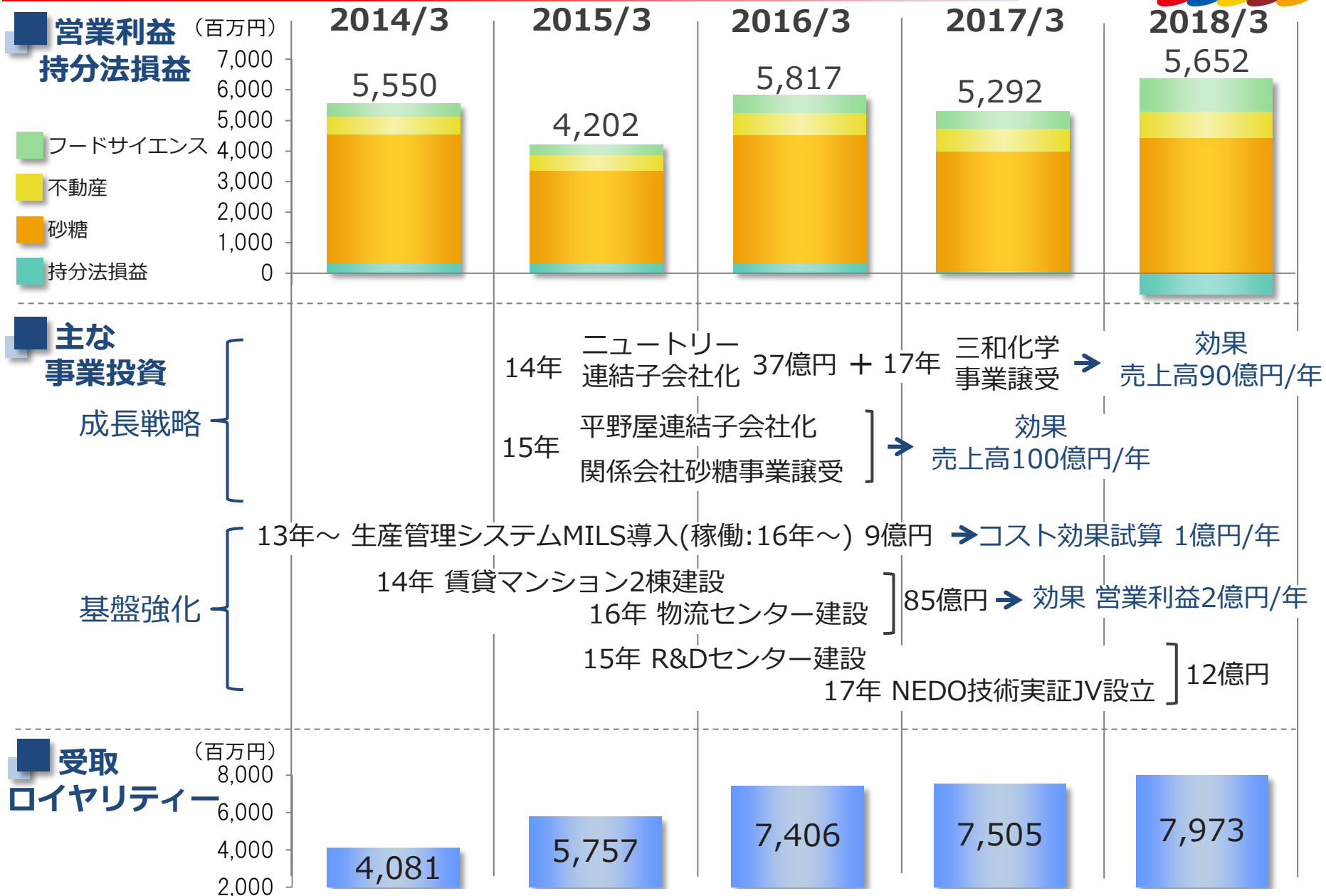
- ▶ 自然の恵みを基盤とした事業そのものの成長
- ▶ 豊かで健康的な食生活の提供
- ▶ サステナブル社会の実現に向けた貢献
- ▶ SDGsを意識した経営



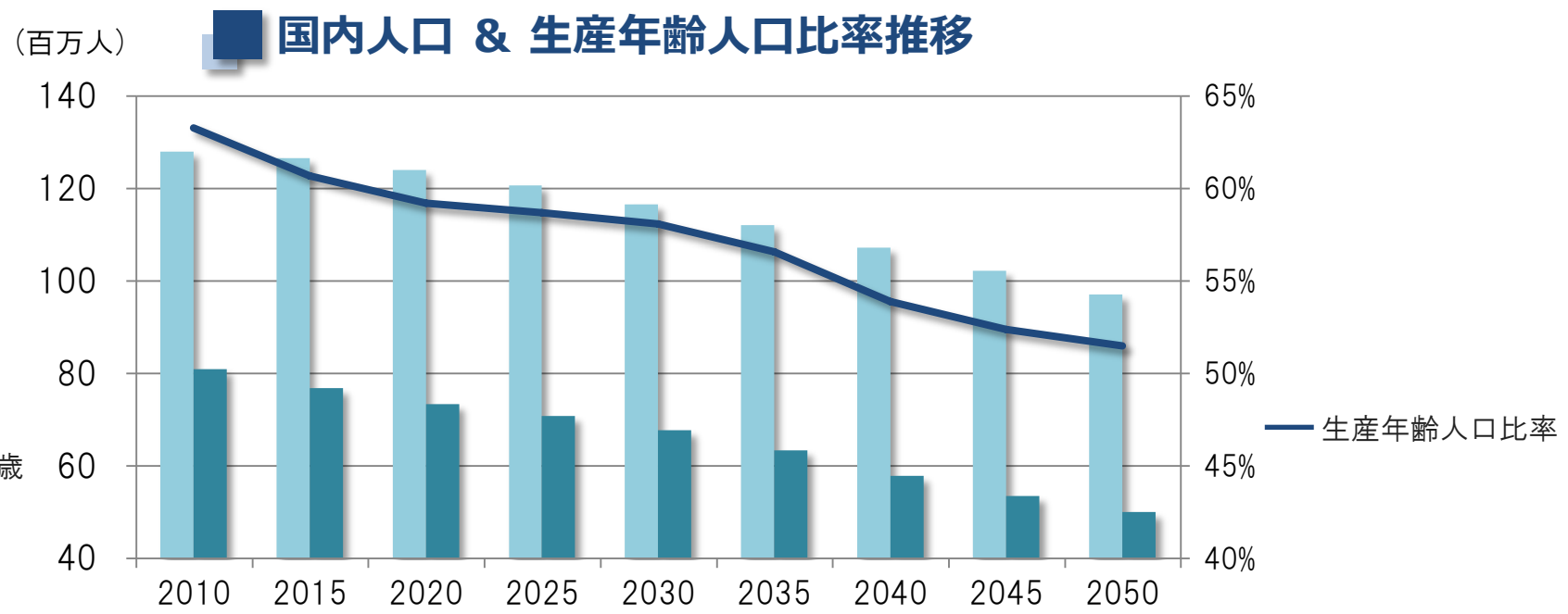
健全な収益力の確保 と
本業を通じた社会的課題解決 の両立へ



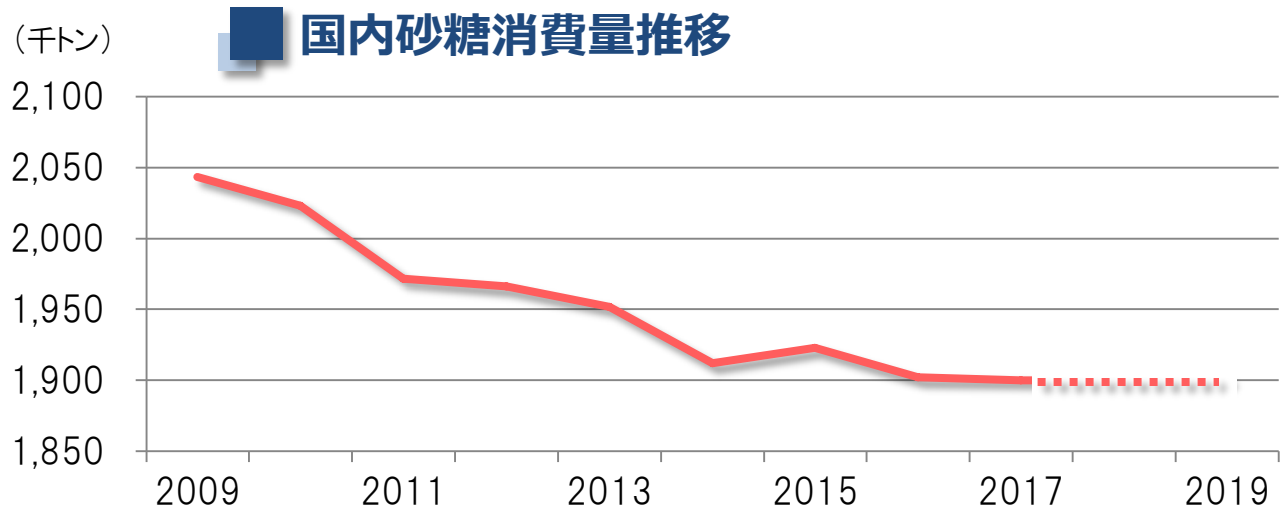
6. 過去5年間の振り返り



7. 事業環境認識



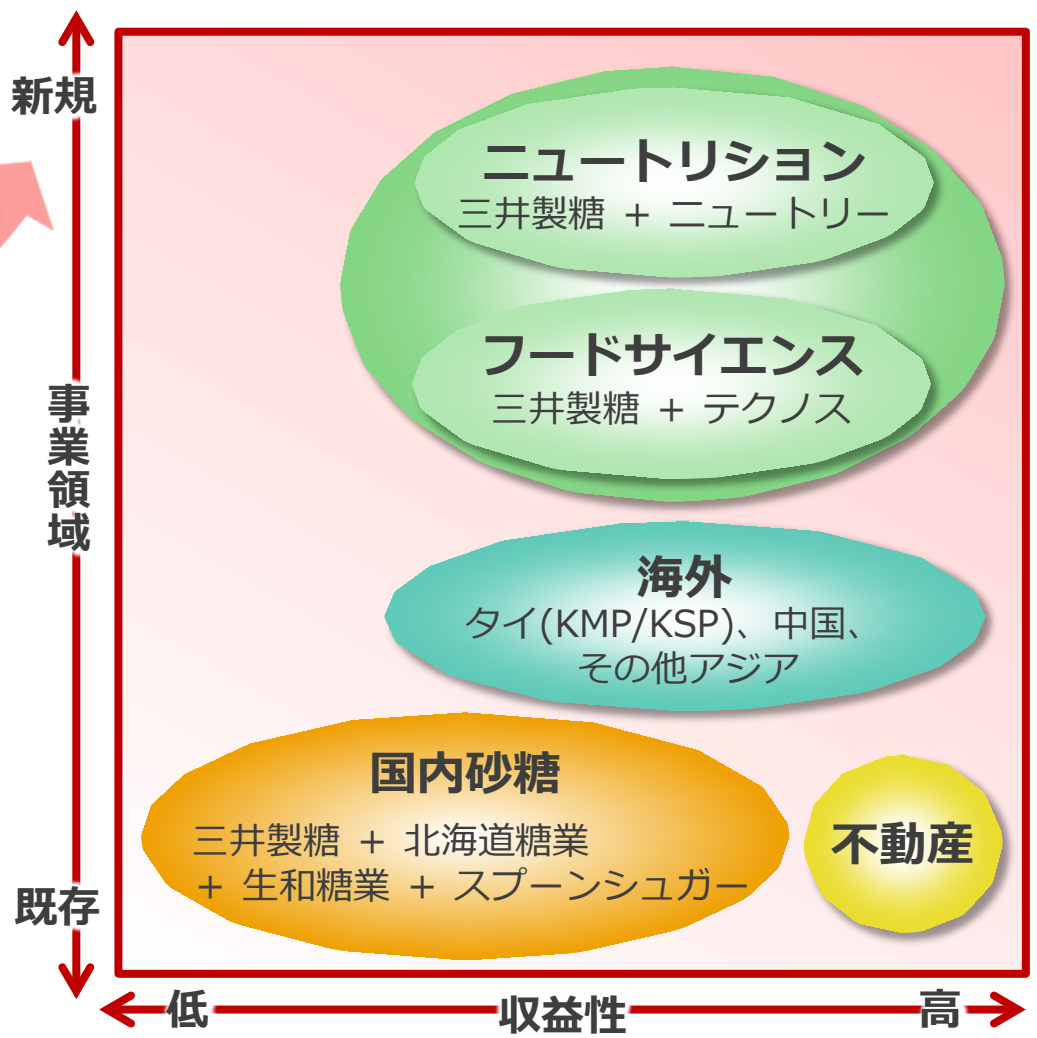
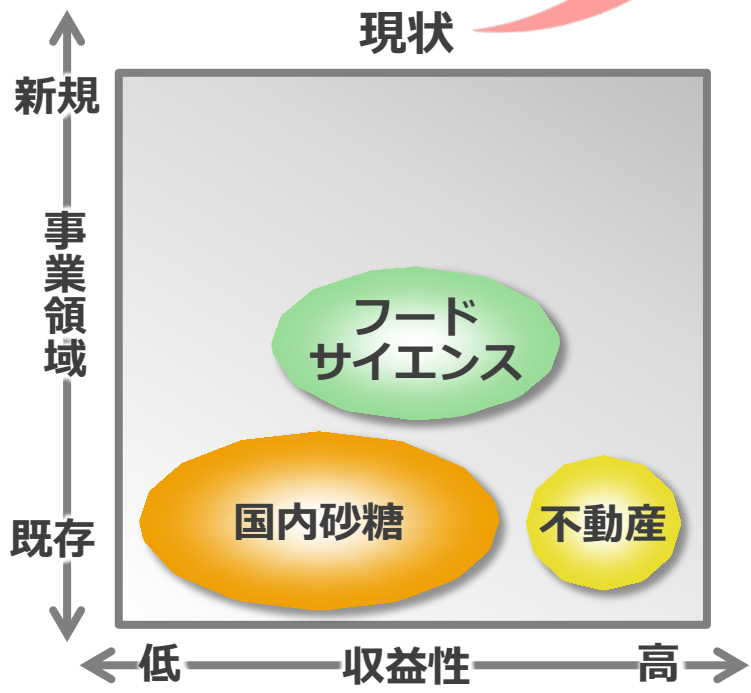
国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集2016年版」より





8. 中長期グループイメージ

- ▶ 国内砂糖事業の拡大と海外砂糖事業の確立
- ▶ フードサイエンス事業の拡大とニュートリション分野への進出



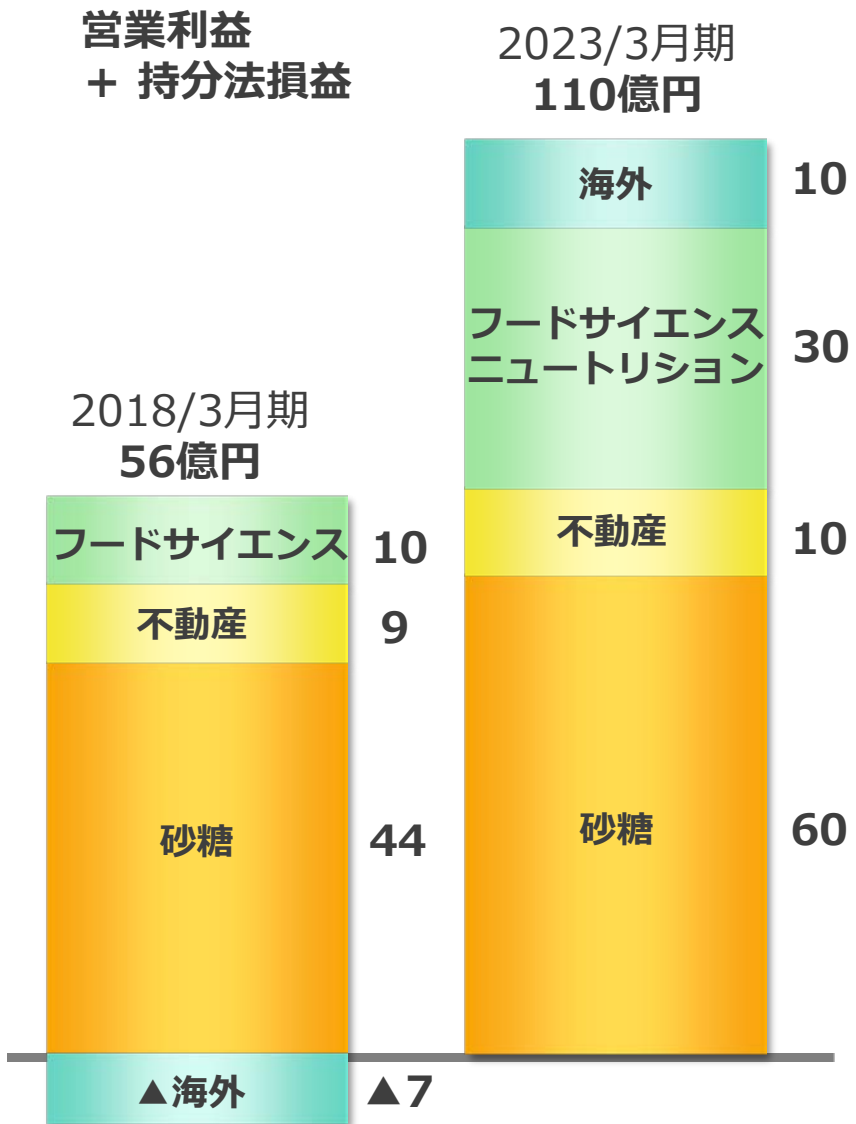
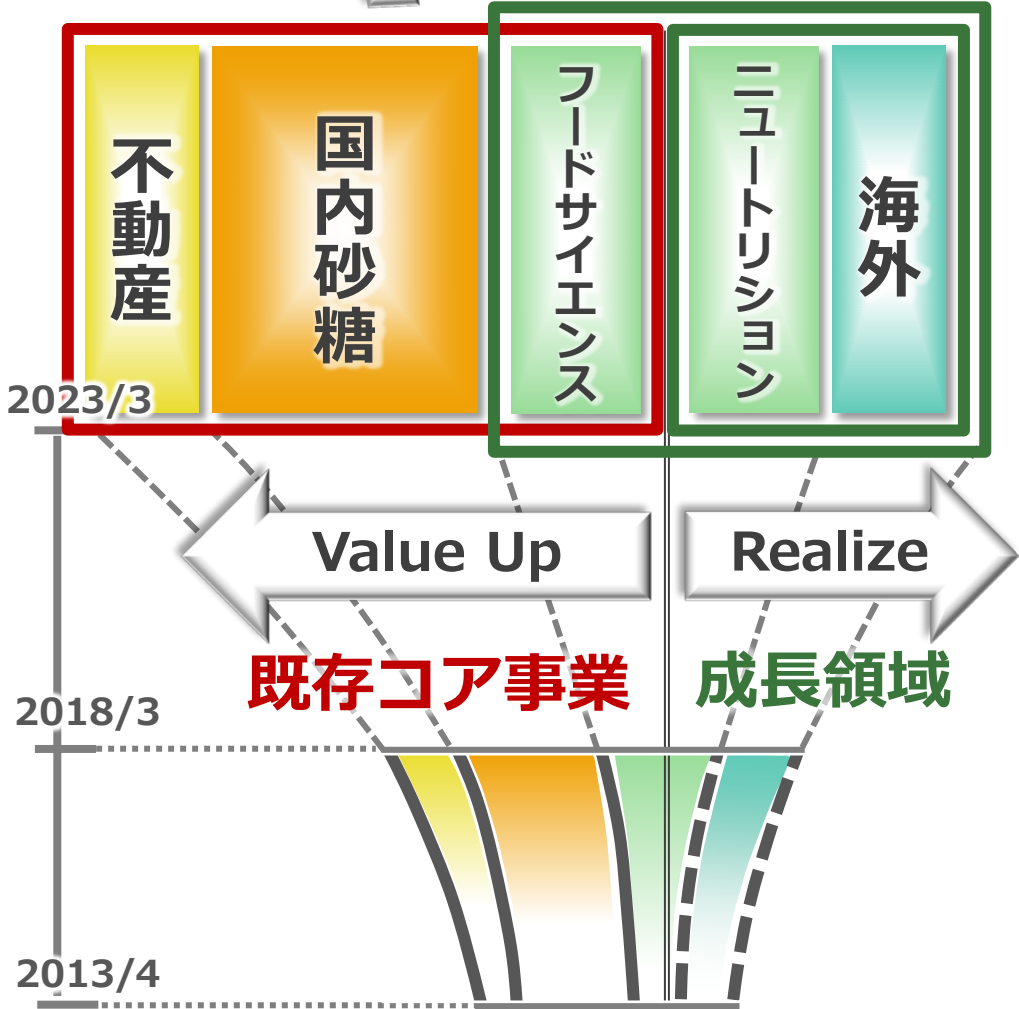
* テクノス = タイショーテクノス
* KMP = クムパフピーシュガー
* KSP = カセットポンシュガー

9. 成長戦略



将来事業構造

収益イメージ



10. 施策①



■ 砂糖

- ▶ **生産・販売・物流体制の抜本的な再構築**
→ **圧倒的な競争力獲得、一層の合理化推進**



▲ 千葉工場



▲ 神戸工場



▲ 福岡工場



- ▶ 機能的な流通システムと高付加価値商品の提供
- ▶ 商品群・包装形態等見直しによる商流・消費構造変化への対応
- ▶ 労働力不足に対応した業務省力化実現、
AI, IoTなど新技術の積極的導入

■ 海外

- ▶ アジアマーケットで高品質な砂糖を製造・販売
- ▶ 食品素材、機能性素材等の海外拡販

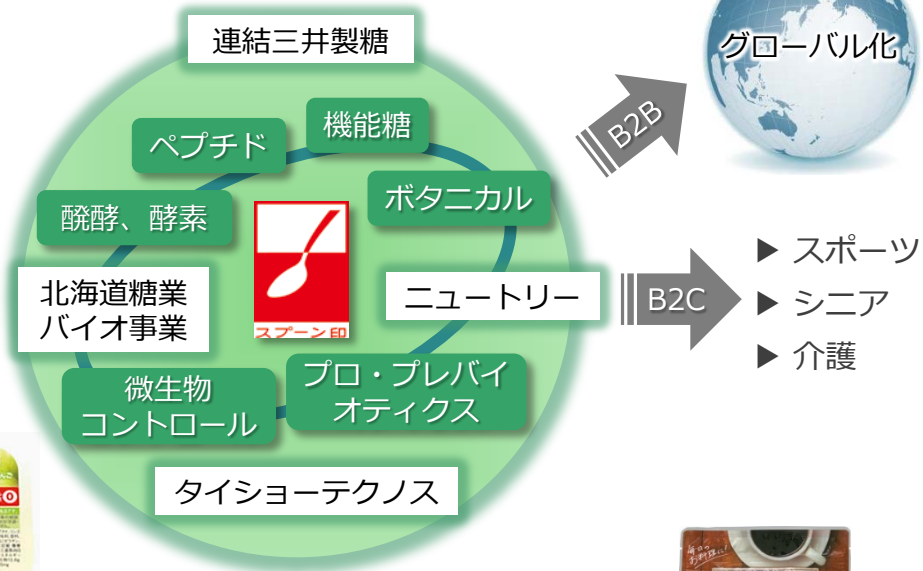


11. 施策②



■ フードサイエンス & ニュートリション

- ▶ 天然の食品素材提供を追求
- ▶ 美味しさと健康に寄与する機能性素材・栄養素の提供
- ▶ 介護・ニュートリション事業
エビデンスに基づき差別化された新製品の開発により市場をリード



- ▶ パラチノース → 18/3月 機能性表示食品の関与成分に追加
ゆっくり消化・吸収される特性の更なる訴求、新たな機能の追加



■ 新領域開拓

- ▶ スポーツ・アクティブシニア向け新商品展開
- ▶ 宅配食など新流通形態を活用した市場開拓

当社パラチノース使用商品



(株)千鶏カステラ本舗
スポーツカステラ



井村屋(株)
5本入スポーツようかん
あずき



(株)ブルボン
スローバー

12. 施策③



■ 不動産

- ▶ 遊休土地開発、既存物件のリモデリングによる安定的なキャッシュフロー創出



▲ 建物上部の太陽光発電設備

◀ イオン物流センター(岡山市)

■ 研究開発

- ▶ NEDO事業（バガス*原料ポリフェノール製造技術実証試験、東レ・三井物産と共同）の推進、事業化

* バガス：サトウキビを搾汁した後に残る固形物

- ▶ オープンイノベーションによる新素材開発
- ▶ グループ内研究開発人材交流の推進による開発力強化

13. コーポレートブランディング活動



「スローカロリー倶楽部」展開

- ・パラチノースを一部使用した和洋菓子コレクションを、高島屋と共同開発



新CM「我が家のスプーン編」制作

- ・「スプーン1杯」の砂糖に込められた、家庭ごとのさまざまな想いにフォーカス



「適糖生活」健康栄養セミナー開催

- ・健康寿命を延ばすには、適量の糖質摂取、身体に負担をかけにくいスローカロリーの実践、そして適度な運動が大切であることを啓発



ジェフユナイテッド市原・千葉のオフィシャルフードパートナー

- ・持続性の糖質エネルギー源パラチノース啓発
- ・糖質に関する知識や、スローカロリーの知見に基づくトップチームの食事サポート



JEF UNITED
ICHIHARA CHIBA

14. 財務戦略



戦略投資枠の設定と配分 500億円 (2018/4~2023/3)

▶ 成長投資

- ・ **海外展開 (80~120億円)**
タイ、中国等 新規事業投資
- ・ **事業領域拡大 (50~100億円)**
フードサイエンス&ニュートリション
新領域開拓 (スポーツ、シニア、介護)

▶ 基盤強化

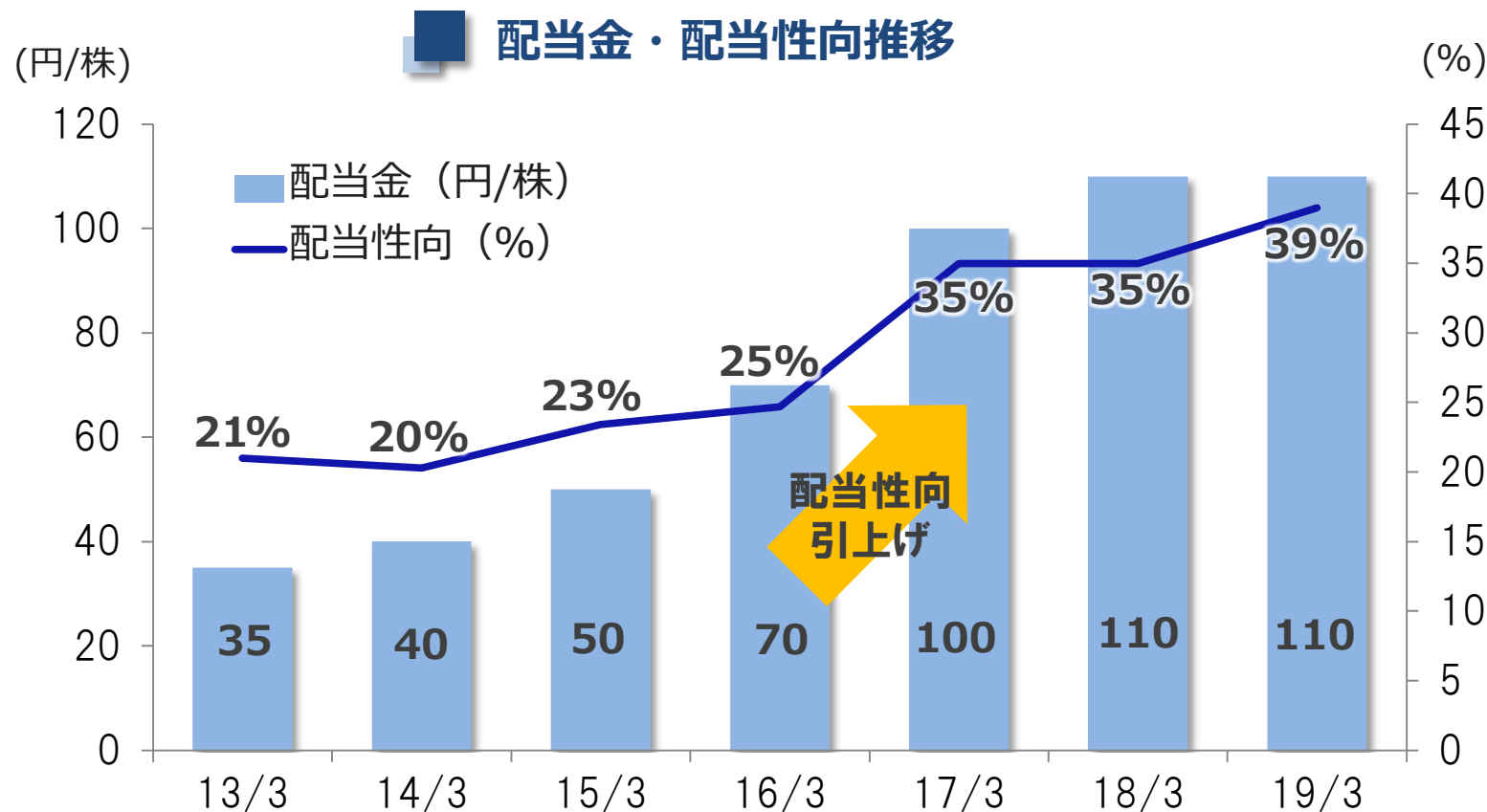
- ・ **戦略的設備投資 (80~100億円)**
消費トレンド変化への対応&合理化・省力化投資
新技術 (AI, IoT) 導入
- ・ **不動産 (50~100億円)**
- ・ **既存事業再構築 (100億円~)**
生産、販売、物流体制の抜本的な再構築

(参考 資金計画)

単位：億円	
2018/4~2023/3	累計
・ 営業CF	500
配当金(※)	▲150
通常設備投資	▲250
・ 外部負債調達余力 (含 現金)	400
	500

※現状の1株当たり配当額を前提に策定しておりますが、将来の配当金額をお約束する趣旨のものではありません。

15. 株主還元策



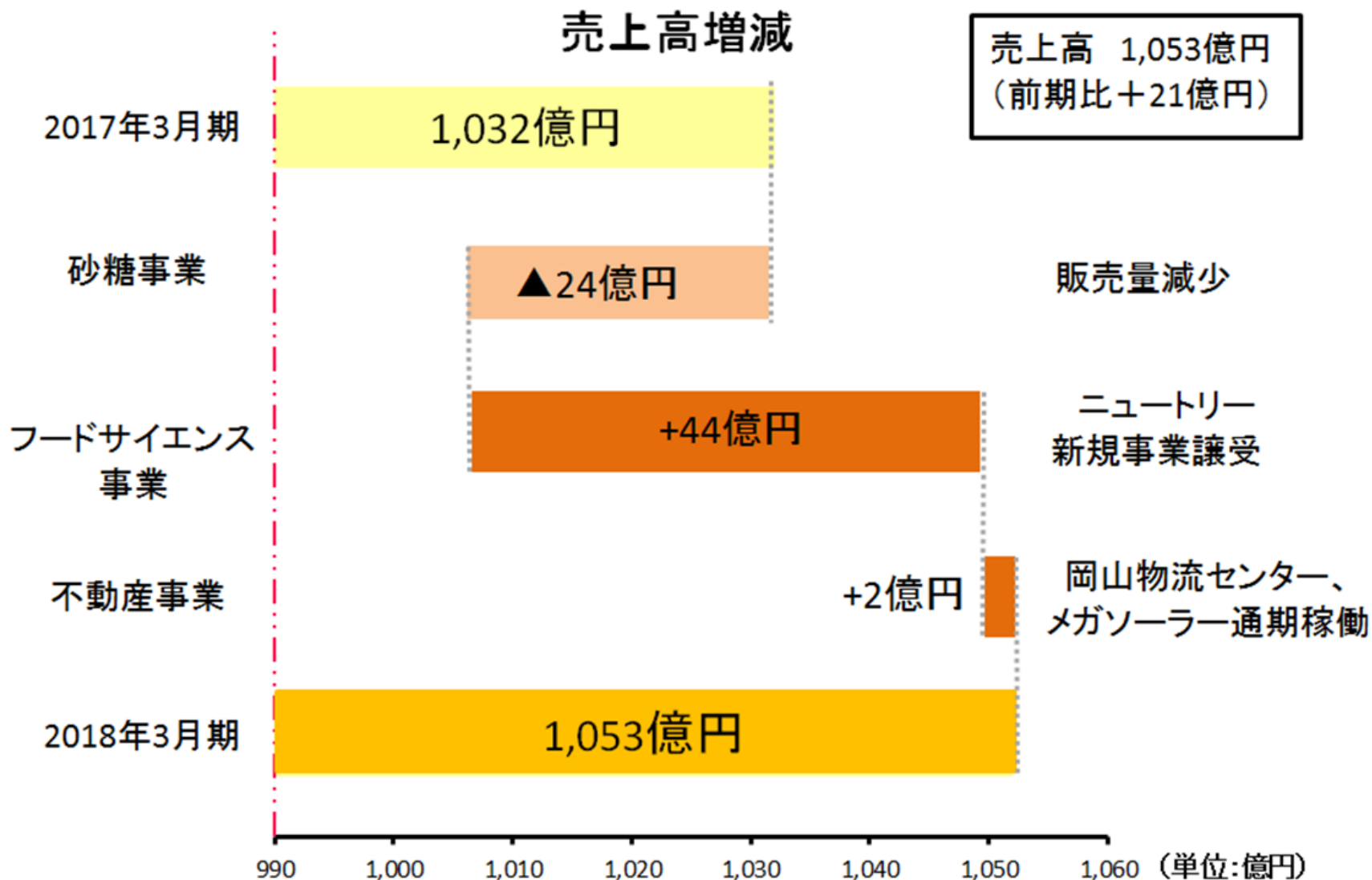
※過去分含め
株式併合後ベースで試算

- ▶ 18/3月期の配当方針は、連結配当性向35%を目標
- ▶ 19/3月期の配当については、現行配当額を維持する方針
- ▶ 20/3月期以降は、現在の株主還元水準を下回らない前提で、新たな還元方針を策定の上、追って公表予定



参考資料

2018年3月期 決算 売上高増減 (対前期比)

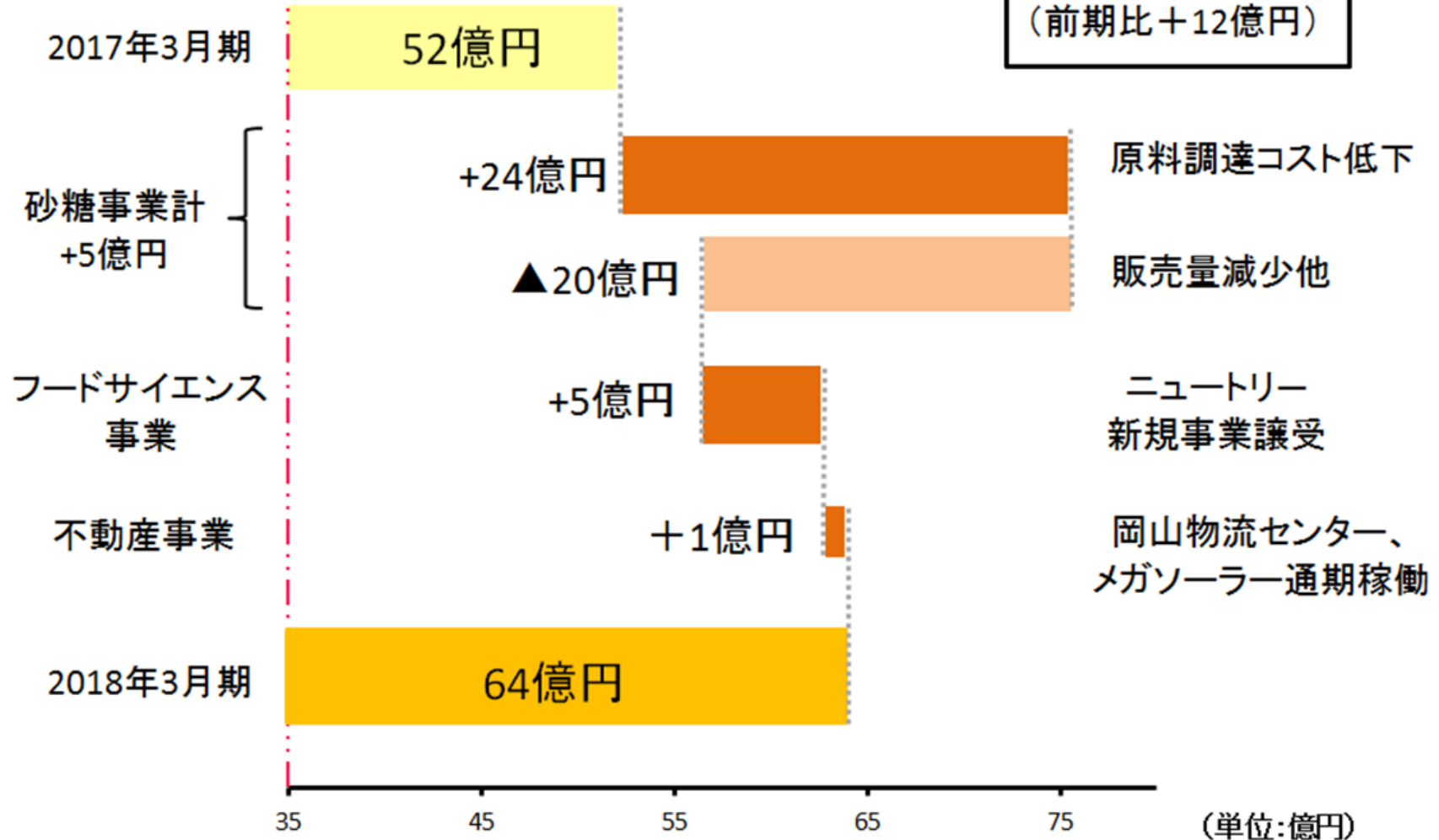


2018年3月期 決算 営業利益増減 (対前期比)

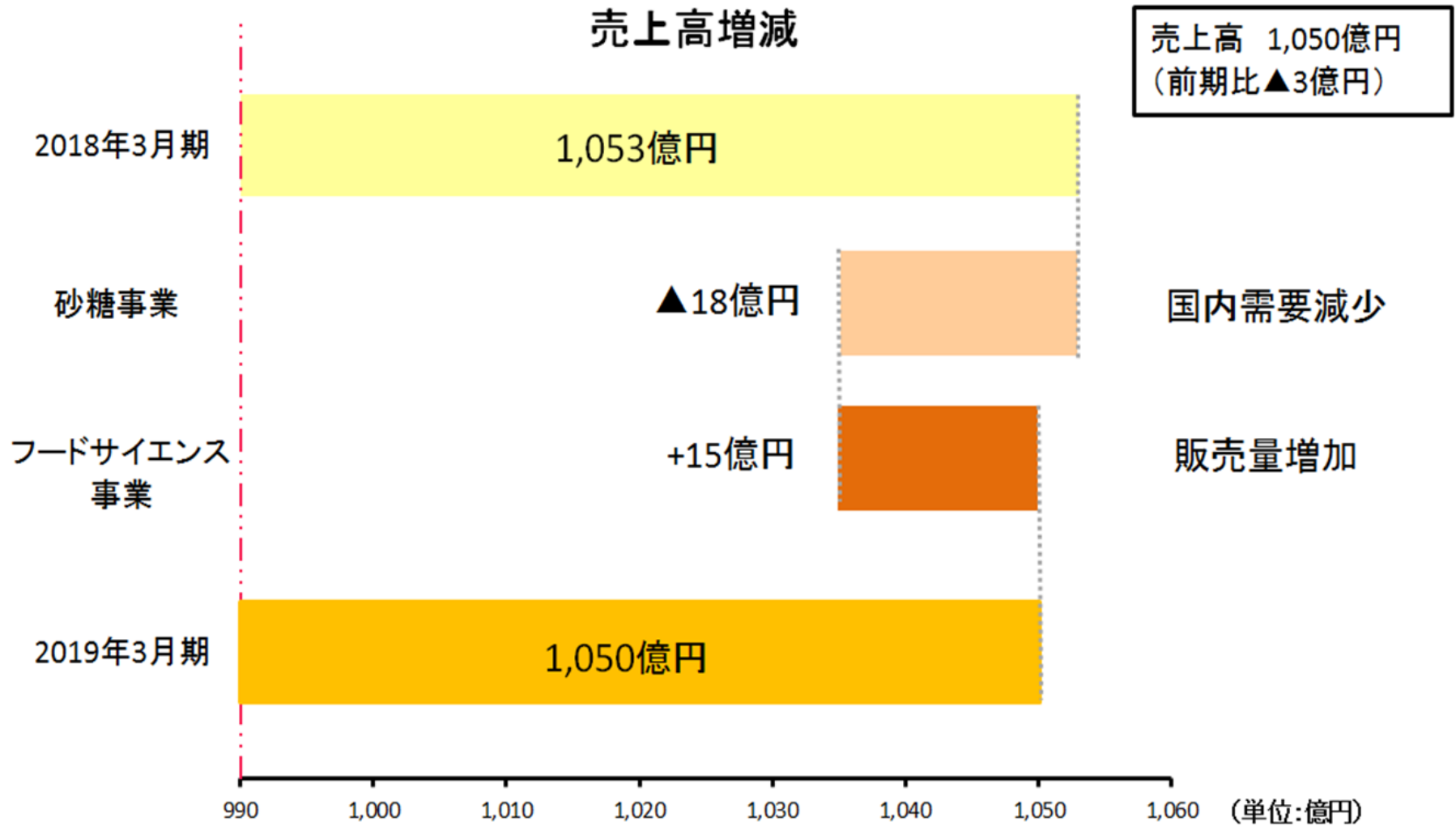


営業利益増減

営業利益 64億円
(前期比+12億円)



2019年3月期 事業計画 売上高増減



2019年3月期 事業計画 営業利益増減



営業利益増減

営業利益 47億円
(前期比▲17億円)

2018年3月期

64億円

砂糖事業

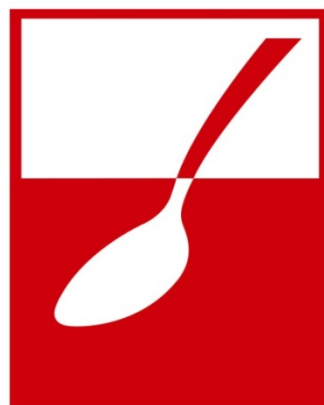
▲17億円

燃料費高騰等による
コスト上昇

2019年3月期

47億円

30 35 40 45 50 55 60 65 70 (単位:億円)



スプーン印

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。